

SHIBUYA COP2025

REPORT / 2025.12.05 FRI

イベント概要	1
タイムテーブル	2
参加者データ&メッセージ	3
TALK SESSION 1 COP30報告会	4
TALK SESSION 2 気候変動への適応と私たちの未来	5
TALK SESSION 3 都市のネイチャーポジティブを推進するテクノロジー	6
1min PITCH	7
大交流会&企業・団体ブース	8
参加者アンケート	9

SWiTCH

一般社団法人SWiTCH

SHIBUYA COP2025

地球ひとつで暮らすためのトークセッション&大交流会

SHIBUYA COP 2025 開催目的

「SHIBUYA COP」は、毎年COP（国連気候変動枠組条約締約国会議）に合わせて開催しており、今年で5年目を迎えます。地球1つで暮らしていくための世界的な潮流を伝え、暮らしや仕事の中での具体的なアクションにつなげることを目的としています。

今年のテーマは、「IN UNISON — 渋谷を冷やすために 世代・業界をこえてつながる」。

今年も酷暑が続き、東京の10月平均気温は100年前から5℃上昇しました。季節の感覚だけでなく、日本の暮らしや文化にも大きな変化が生まれています。エネルギー消費量の多い国際都市・渋谷だからこそ、都市のサステナブル化は喫緊の課題です。

本イベントでは、11月にブラジルで開催されたCOP30の最新情報を共有し、若者×企業（団体）×自治体×アカデミアがつながり、「渋谷を冷やす」ための実践へと踏み出すきっかけを創出しました。

SHIBUYA COP 2025 概要

開催日時	2025年12月5日（金）17:30-20:30
開催形態	ハイブリッド開催
参加者合計	当日 312名（会場参加:93名／オンライン参加:219名）
アーカイブ動画視聴	304名（2026年4月23日時点）
会場	SHIBUYA QWS 渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア15階

アーカイブ動画



主催



一般社団法人SWITCH

協賛

WE ARE GREEN



東急不動産ホールディングス

東急不動産ホールディングス株式会社



一般社団法人
渋谷未来
デザイン

一般社団法人渋谷未来デザイン

後援



後援
環境省

環境省

ちがいを
ちからに
変える街。



渋谷区
Shibuya City

渋谷区

futureearth
Research. Innovation. Sustainability.

フューチャーアース

協力



渋谷QWS



株式会社サイバーエージェント

SUNTORY
SUNTORY BEVERAGE & FOOD

サントリー食品
インターナショナル株式会社



株式会社ドール



株式会社パルコ
デジタルマーケティング



株式会社 明治



GREEN×EXPO協会



国立研究開発法人
国立環境研究所



東京大学未来ビジョン研究センター

OPENING MESSAGE 17:30 - 17:40



国連事務総長気候変動担当
若者諮問グループ

アクセル
エリクソン



元 国連事務総長気候変動担当
若者諮問グループ

ニスリーン
エルサイム



渋谷区長

長谷部 健

TALK SESSION 1 17:40 - 18:20

「COP30ブラジル」参加企業からの最新情報共有



環境省
地球環境局
工藤 俊祐



株式会社 NHK
エンタープライズ
堅達 京子



株式会社
明治
木原 純



株式会社
電通グループ
荒木 丈志



SWITCH
(MC)
佐座 槇苗

1min PITCH 1 18:20 - 18:35

TALK SESSION 2 18:35 - 19:15

気候変動への適応と私たちの未来



サントリー食品インター
ナショナル株式会社
井島 隆信



東京フットボール
クラブ株式会社
川岸 滋也



環境省
地球環境局
羽井佐 幸宏



SWITCH
(MC)
圓林 悟

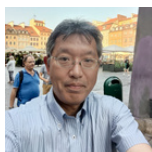
1min PITCH 2 19:15 - 19:30

TALK SESSION 3 19:30 - 20:10

都市のネイチャーポジティブを推進するテクノロジー



東急不動産
株式会社
渡邊 卓也



GREEN×EXPO
協会
脇坂 隆一



デンマーク王国
大使館
マヤ ソフィー
ブアゴ



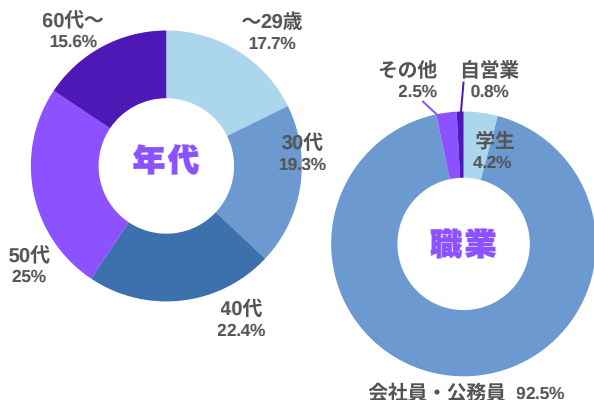
東京大学未来
ビジョン研究センター
江守 正多



SWITCH
(MC)
佐座 槇苗

交流会 20:10 - 20:30

参加者データ



- 相鉄ホールディングス株式会社
- 相鉄ビジネスサービス株式会社
- 東急電鉄株式会社
- コミュニケーション株式会社
- アスエネ株式会社
- パナソニックホールディングス株式会社
- 株式会社UNERI株式会社日立製作所

- ダイキン工業株式会社
- 株式会社日立アカデミー
- 株式会社UPDATER
- 株式会社CONIFER
- 東急不動産株式会社
- 東京サラヤ株式会社
- 株式会社三菱UFJ銀行
- 株式会社電通
- 株式会社電通ライブ
- 電通PRコンサルティング株式会社
- 雪印メグミルク株式会社
- 株式会社イトーキ
- 八千代エンジニアリング株式会社
- ブランティオ株式会社
- 株式会社三井住友銀行
- 三井デザインテック株式会社
- キャノン株式会社
- 株式会社松屋
- 株式会社大広 (DAIKO)
- 豊田通商株式会社
- 昭和産業株式会社
- 株式会社明治
- Story Design house 株式会社
- 日エテクニカルサービス株式会社

- 株式会社ウェザーニューズ
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社日本経済新聞社
- 株式会社博報堂プロダクツ
- 株式会社グローバル・リンク・マネジメント
- 株式会社三井住友フィナンシャルグループ
- リクroma株式会社
- 株式会社NHKエンタープライズ
- 株式会社ジョイックスコーポレーション
- 株式会社電通グループ
- サントリーホールディングス株式会社
- サントリー食品インターナショナル株式会社
- 東京フットボールクラブ株式会社
- 渋谷区教育委員会 事務局 教育指導課
- 渋谷区
- 札幌市東京事務所
- 横浜市役所
- 環境省 地球環境局
- 環境省 地球環境局 総務課 気候変動科学・適応室
- 法政大学
- 国際基督教大学
- 帝京大学
- 学校法人至善館 大学院大学至善館
- 東京大学 未来ビジョン研究センター
- 学校法人角川ドワンゴ学園 N高等学校
- 学校法人角川ドワンゴ学園 S高等学校
- 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント
- 一般社団法人 CDP Worldwide Japan
- 一般社団法人 NAP
- 一般社団法人 渋谷区中小企業診断士会
- 公益財団法人 2027年国際園芸博覧会協会 (GREEN×EXPO協会)
- 新日本婦人の会
- 朝日新聞社
- 日本経済新聞社
- 駐日デンマーク王国大使館
- 渋谷未来デザイン
- Climate Youth Japan
- TOKYO SOCIAL COLLABORATION
- 順不同/他多数

OPENING MESSAGE



アクセル・エリクソン

国連事務総長気候変動担当若者諮問グループ

COP30の中でも特に重要な二つのメッセージに焦点を当ててお話しします。第一に、短期的に世界の平均気温が1.5度の上限を上回ることが明白になっているという緊急性についてです。しかし、緩和対策を拡大すれば今世紀末までに1.5度未満に抑える機会は残されています。これが二つ目につながります。パリ協定の実現のためには先進国が資金などの支援を拡大することにより解決に導けるということです。日本も重要な役割を担っています。



ニスリーン・エルサイム

元 国連事務総長気候変動担当若者諮問グループ

COP30は今世界が直面している混乱を象徴するような出来事が起きたと考えられます。また、多くの成果が生まれました。2035年までに気候変動の適応資金を3倍に引き上げるという決定やシャスト・トランジションを支えるメカニズムが設立されたことです。これらは確実に正しい方向への一歩であると考え、今後約束から実行へと移すことが課題となります。また、熱帯雨林保全ファンドが設立されたことも非常に重要です。



長谷部 健

渋谷区長

環境問題について関心を持っていただくということは、渋谷区のまちづくりにとっても重要なことです。環境に関する想いを共有し、広げていく、そして共感する輪を作っていくことに意義があると実感しています。今回の機会を通じて人と人とのつながりや意識がはぐくまれる機会になることを期待しています。

Presented by 一般社団法人渋谷未来デザイン



11月にブラジルで開催されたCOP30に現地参加した4名の登壇者がCOPの最新情報と脱炭素の国際潮流について生の声でお伝えします。

COP30への参加目的

工藤 COP30はブラジルのベレンで開催され、当初は集客や治安面での不安もありましたが、ジャパンパビリオンには多くの来場者が訪れ、活気のある場となりました。パビリオンでは、日本企業の技術を中心に、温暖化対策や資源循環、衛星モニタリングなどの具体的な取り組みを紹介しました。また、セミナーを通じて、日本の政策や考え方も発信でき、国際的な対話の場として手応えを感じました。

堅達 ジャパンパビリオンでは、気候危機に対する啓発活動と環境教育をテーマにセミナーを実施しました。さらに、国連SDGsパビリオンに登壇し、環境教育に活用できるアニメーション「FUTUREKID TAKARA」を世界に向けて発信しました。一方で、日本が化石賞を6年連続で受賞し続けている現状から、政策面での課題とともに、次世代への発信の重要性を改めて実感しました。

木原 明治としては今回が初めてのCOP参加となり、今回は後半4日間、ジャパンパビリオンにて、カカオ未活用部位を活かした「カカオ生分解性プラスチック」や「世界初素材化したカカオセラミド」に関する、緩和と循環経済・生物多様性・汚染対応などの共便益に資する技術を展示しました。加えて、20年以上支援を続けているブラジル・トメアスのCAMTA農協によるアグロフォレストリーの取り組みも紹介し、COP終了後には現地を訪問しより理解を深めてきました。

荒木 COP30では、各パビリオンを巡りながらネットワーキングを行いました。特に印象的だったのは、韓国パビリオンで、伝統芸術が気候変動から受ける影響を可視化して発信していた点です。また、多様な団体や、農業・食・栄養をテーマにしたパビリオンも多く見られました。今回のCOPは、「自然のCOP」「先住民のCOP」など、開催地ならではの呼ばれ方がされており、会場では先住民の声が上がる場面も見られました。

COP30で感じたこと

木原 チョコレートが世界的に敷居が低いことを実感しました。今回のCOPでは、様々な背景を持つ方々とコミュニケーションをとることができたことが我々としても財産になったと思います。現地の農家の方からも環境の話題が出たりと、ものづくりやマーケティングを行っていく上での基本的な思考を変えていく必要性を認識しました。

荒木 COP29との違いとして「食」という点に興味を持っている人が多かったと感じました。また、「適応」への関心が高まっている印象で、ビジネスパビリオンでも適応に関する資金調達について等のブースも見られました。

工藤 日本からかなり遠いブラジルで開催された割には、多くの日本人が参加し、明治のようなブラジルに深く関わっている企業がCOPに参加されていたのも印象的でした。

堅達 「真実のCOP」という点において、科学者の声にどれだけ耳を傾けられるかが、アマゾンを助ける一歩になると思います。アマゾンが消滅すると人類への影響は大きいです。アマゾンについても自分ごととして捉えていくことがとても大切だと改めて実感しました。

Presented by 環境省



サントリー食品
インターナショナル
株式会社
井島 隆信

東京フットボール
クラブ株式会社
川岸 滋也

環境省
羽井佐 幸宏

SWITCH
学生メンバー
園林 悟



食品メーカーやスポーツ業界・環境省、様々な立場から気候変動「適応」に取り組む3名に現在取り組んでいる適応策とこれからの適応策のあり方について語っていただきます。

気候変動適応の現在地

園林 地球温暖化対策には「緩和」と「適応」の2つがありますが、今回は特に「適応」に焦点を当てて議論します。近年、熱中症や豪雨が増えています、気候変動を「止められないから仕方ない」という後ろ向きの対策ではなく、新しい技術や社会の繋がりを生み出す前向きな姿勢で捉えたいです。

井島 サントリーで「GREEN DA・KA・RA」ブランドを担当しています。長らく熱中症啓発活動を行っており、特に、子どもの高さで計測した気温は大人より約7℃も高くなる、子ども特有の暑熱環境を「こども気温」と称し、東京都などと連携して熱中症対策啓発を強化しています。

川岸 サッカーの現場では、夏はピッチの人工芝が溶け、子どもが火傷をするような過酷な状況です。適応策として、試合中の給水時間を設け、夏のキャンプ地を沖縄から涼しい北海道白老町に変更しました。また、暑さへの対応が大きな要素となり、Jリーグ全体でも2026年から秋春制へシーズン移行を予定しています。

羽井佐 昨年は観測史上最も暑い夏となり、熱中症の救急搬送者が調査開始以来最多の10万人を超えました。気候変動の影響は、子どもが7℃高く感じるように、弱い立場の方ほど大きな影響を受けます。食料、水、災害など広範な分野で影響が生じており、これに対応する対策が「気候変動適応」です。

気候変動適応のこれから

井島 「水と生きる」をコーポレートメッセージに掲げるサントリーとして、水資源の適応策は重要です。国内工場が組み上げる地下水量の2倍以上を育む「水源涵養活動」に20年以上取り組んでいます。また、災害備蓄へのハードルを下げるための考え方として、普段からいつものものを少し多く買っておく「ちょ備蓄」の啓発活動も始めています。

川岸 豪雨や台風による試合の中止は2017年以前と比べ約4.7倍に増加し、地域経済にも大きな影響があります。私たちは発信力を活かし、有識者懇談会を開いて環境戦略を策定中です。FC東京スクール生への「適応教育」や、選手による啓発を通じ、多くの方を巻き込みながら取り組みを加速させたいです。

羽井佐 ご紹介いただいた取り組みは全て、私たちが安心して生活し、より良い暮らしを作るための適応策です。企業による商品やサービスを通じた発信力には強みがあり、ぜひ私たちも学ばせていただきたいです。行政だけでは難しく、企業や団体などをコミュニケーターとして連携を深めていく必要があります。

園林 井島様や川岸様の発言から、企業が業界を超えて、また地域社会と連携し、新たな適応策を生み出す重要性を実感しました。プロスポーツが持つ発信力は、気候変動対策に取り組む上で強力な武器となります。登壇者の皆様との対話を通じて、「適応」が単なる防御策ではなく、新しい価値創造の機会であることが明確になりました。

Presented by 東急不動産ホールディングス株式会社



東急不動産
株式会社
渡邊 卓也

GREEN×EXPO
協会
脇坂 隆一

デンマーク
王国大使館
マヤ ソフィー
プアゴ

東京大学
未来ビジョン
研究センター
江守 正多

SWITCH
代表理事
佐座 慎苗



地球温暖化を緩やかにする「緩和」と自然を増やす「ネイチャーポジティブ」について
都市での実践をテーマに語っていただきます。

都市のネイチャーポジティブの現在地と実践例

佐座 最後のセッションは「都市のネイチャーポジティブを推進するテクノロジー」をテーマに議論します。ネイチャーポジティブとは、自然を今より増やしていくという考え方です。このセッションでは、温暖化をゆるやかにする「緩和」と、自然を増やす「ネイチャーポジティブ」の両方の視点から、都市がどう変わるべきかを議論していきます。

渡邊 渋谷を中心に、周辺の緑地資源と調和した「エコロジカルネットワーク」の形成を目指しています。都市のネイチャーポジティブを進める鍵は、参加者が楽しく取り組めることです。実際に、空調室外機の間でサツマイモを育てる「室外機芋」を実施したところ、省エネ効果に加え、参加者の満足度が高まり、建物の好感度にも繋がることができました。

脇坂 2027年に横浜で開催される「GREEN×EXPO」の推進戦略を担っています。この博覧会は、テーマである「幸せを作る明日の風景」の実現を目指し、カーボンニュートラルやNature-Based Solutionsの実装を目指します。市民がボランティアやワークショップを通じて生物多様性の重要性を学び、社会を変えていくという参加型の仕組みを鍵としたいです。

マヤ デンマークでは、デジタル化をGXの重要なツール「デジタル・グリーン・トランジション」と位置づけ、データを活用しています。都市の自然を増やす鍵は、自治体だけでなく、民間企業や市民個人の「オーナーシップ」を持つことです。コペンハーゲンでは、生物多様性のマッピングデータを市民に公開し、市民が在来種の種を植えるなど、個人が小さなスペースで多様性を増やすイニシアティブを支援しています。

江守 地球規模では、2035年の目標を全て達成しても2100年には2.3℃～2.5℃の上昇ペースであり、1.5℃目標とは大きなギャップがあります。しかし、都市の自然回復は、この『緩和』と『適応』の両方に効果的であり、中心的な役割を担い得ます。特に、都市の自然回復が気温を下げエアコン需要を減らすといった緩和と適応の「シナジー」が重要です。

これからの緩和を考える

江守 都市が自然を取り戻すためには、『緩和』と『適応』の視点を統合することが鍵です。屋上緑化はヒートアイランド対策（適応）と、エアコンの電力需要を減らす（緩和）に繋がります。また、テクノロジー、特にITやデータといった「分散したものを繋ぐ技術」は、自然を身近に繋ぎ、人と自然の心理的距離を縮めることができる存在だと考えます。

渡邊 取り組みを持続的に続けるためには、参加者が楽しく取り組めることが重要です。また、1企業では限界があるため、一緒に取り組める「お仲間」を増やしていきたいです。ご興味や連携の機会がありましたら、お気軽にお声がけください。

脇坂 この博覧会は、ネイチャーポジティブなどをテーマにした、これからの生活を考える博覧会です。ぜひGREEN EXPO 2027にお越しいただき、単に見るだけでなく参加いただくことで、社会変革に繋げていきたいと思っています。

マヤ こういった活動は、複雑である必要も、高価である必要もありません。全ては小さなイニシアティブから始まりますが、それぞれの都市や個人に合わせた活動を通じて、全員がこの多様性の推進に参加できると信じています。



1min PITCH ①



株式会社ドール 出田 大樹

「もったいないバナナ」をご存知でしょうか？もったいないバナナとは皮に傷があったり、サイズが異なるといった理由で規格外になって捨てられてしまうバナナのことです。生産地のフィリピンでは約2万トン、本数にすると約1億本が捨てられてしまっています。ドールではもったいないバナナを企業や学校に直接お届けして、一緒にフードロス削減に取り組む「オフィス・デ・ドール」サービスを開始しました。是非、参画をお願いします。

公式サイト：<https://www.dole.co.jp/lp/jp/officededole/>

株式会社パルコデジタルマーケティング 鈴木 雅詞

つながる、つたわる、サステナブル。ということで、企業間サステナビリティコミュニケーションツール「wezero®」を提供しております。各サステナ分野において企業同士が連携することによって 解決・推進できると考えております。企業間同士の相互コミュニケーションや情報発信をこのツールにおいて行うことができます。自社だけでは難しいサステナビリティ課題を共同して解決ということに焦点を当てています。



1min PITCH ②



東急不動産株式会社 小池 祥太郎

GREEN VALLEY SHIBUYAというプロジェクトを立ち上げました。ITの集積地である渋谷「Bit Valley」でグリーンテックのスタートアップを育成するプロジェクトです。渋谷駅中心エリアを中心にスタートアップを実証し、その様子をPRしつつ、国内外からの資金が調達されるシステムです。主にスタートアップ6社を支援していく予定です。

株式会社 明治 塚本 菜月

COP30のジャパンパビリオンで初めて出展させていただきました。今回出展に至った背景としては、COP30が開催された近郊にあるトメアスのCAMTA農協への支援がきっかけです。支援内容はアグロフォレストリーによる持続可能な力カオ栽培です。



大交流会 & 企業取組み紹介ブース

株式会社NHKエンタープライズ



株式会社パルコデジタルマーケティング



サントリー食品インターナショナル株式会社



GREEN VALLEY SHIBUYA powered by 東急不動産



株式会社ドール



国立研究開発法人国立環境研究所



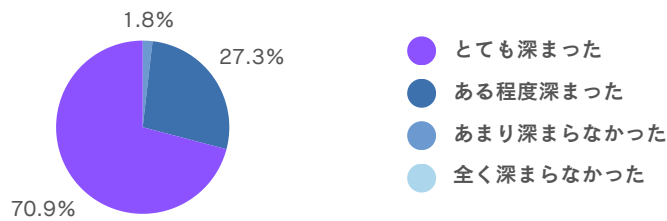
株式会社 明治

GREEN × EXPO 協会



参加者アンケート

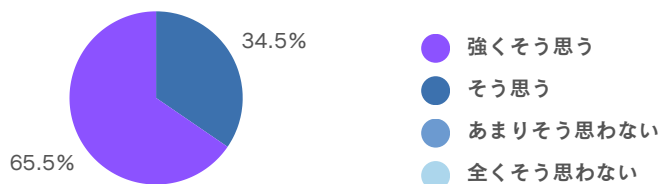
Q1. 参加して気候変動適応について理解は深まりましたか？



Q2. 理解が深まった理由を教えてください。

- 報道だけでは知り得ない生の情報を聞けてよかった
- 緩和と適応をキーワードとして、話を整理して聞くことができました
- デンマークの事例やグリーンエキスポを初め多く事例について知れた
- 気候変動対策に対する世界の潮流を理解できた
- COP30の現地の雰囲気、デンマークの地域を巻き込んだ緑化の取り組みなど印象的だった
- 様々な立場の意見が聞けた事、COPそのものについての雰囲気や説明はとても良かった
- どのセッションも、身近な課題から深掘りされていく流れで、大変わかりやすかった

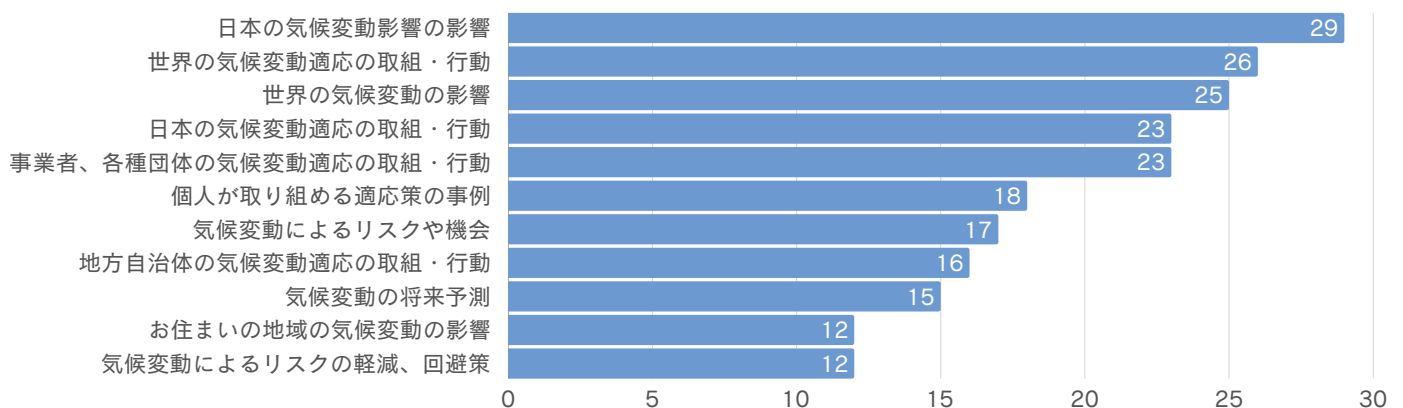
Q3. 気候変動適応について、今後さらに学びたい・取り組みたいと思いましたか？



Q4. そう思う理由を教えてください。

- 余裕があったらやるものではなく、緊急になってきていると肌で感じた
- 子供の感ずる気温が7℃も高いとは知らなかった
- 当社の担当する業界での取組を更に発展させるヒントを求めている
- 自分達の時代だけでなく、子供達の未来をより良い環境にしたいし、そうなる欲しいから、取り組みは必要だと思った
- 生活に直結する事なので我々が取り組まないというチョイスは無いと思う
- 今まさに取り組んでいる
- 自分の暮らしで明らかに変化しているから

Q5. 今回参加して、気候変動影響や適応についてもっと知りたい情報は何ですか？



SWiTCH

地球ひとつで暮らしていくために

SWiTCH

一般社団法人 SWITCH

SWITCHは、「地球1つで暮らしていく」ために
若者と大人世代が共創するプラットフォームです。



公式サイト：
[https://switch.bio/
contact@switch.bio](https://switch.bio/contact@switch.bio)



イベント公式サイト：
[https://switch.bio/
shibuyacop2025/](https://switch.bio/shibuyacop2025/)

お問い合わせ先:contact@switch.bio